わがむらの昔ばなし

今回はこの欄に寄せて、山口市在住の白藤董氏（元町長）から郷土の昔ばなしを、投稿いただきましたので、貴重なお話として紹介させて頂きます。

特別寄稿

元衆議院議員・元山口県会議員 日本新式捕鯨事業開創者 山田桃作翁 略歴

山口市　白藤　董

明治三十年山田桃作氏は岳父與三郎翁の遺志として金壱万円を地元三隅、深川、仙崎、通、四村の教育資金に寄贈された。

山田家は代々素封家として知られ家運豊かなるも自らは簡素で社会には賑窮恤災に努めらる。四ケ村民等しくその徳に感じ当時県道に面し三隅、沢江大歳神社下を適地に選び、

篆額。内閣総理大臣
伊藤博文公

撰文。東宮侍講文学博士三島
毅先生

書。勅選議員書道大家巌谷
修先生

を以って明治三十三年一月頌徳紀念碑を建立しその功を不滅に伝える。

桃作翁は阿武郡福川村、岡十郎氏と共に本邦に於ける諸威式捕鯨事業の開創者としてその英名は千載不朽である。

岡氏は山田氏の協力に依り壮志満々遠く諸威に銃殺捕鯨の研学と実地を研修し同国の理解納得を得て熟練の砲手「ウーピー・フーアター」の両名を帯同帰朝後国内有力捕鯨業者竝に地方有識者の多数を招き岡氏と共に山田氏庭に於て創業披露の円遊会を開き捕鯨事業は将来有望で一面国民栄養資源の確保に於て肝要につき特に支援を給われば幸いだとのべている。

時恰も日露の風雲急を告げ明治三十七年二月十日遂に國交断絶を招くに至った。

この國家非常に際会するも食資源獲得は別だと怯むことなく既に偏い入れた捕鯨船「オルガ号」「ルギナ号」の二隻を出漁させた。全く冒険とさえ考えられるがこの二隻によって二百四十五頭を捕獲した。これ全く山田、岡両氏の沈着豪胆の賜物であった。

剰え威勢を振っていたロシヤ捕鯨船隊は全滅し日本海は勿論わが國沿岸全域の制海権はわが手に帰したのであった。同時に日本海海戦の余慶で「ニコライ号」「ミハイル」「アレキサンダー号」「レズニー号」等のロシヤ大平洋捕鯨会社の捕鯨船隊を失い日本近海から姿を消し去った。

ここで捕鯨船話しから離れエピソードを一つ申し添えよう。

明治三十八年五月二十七日、彼の日本海海戦記念日明倫小学校児童であったわたしたちは兎渡谷部落某戦殁者の村葬に参列していたがほんの間近かに砲声が聞えてきたものでした。

わが勇敢な艦砲射撃の命中でロシヤ艦隊は旗艦はじめ沢山の軍艦が撃沈された、ところが「ロジエストウインスキー少将」が坐乗していた「ワリヤーク号」が僅かに沈没をまぬかれ大きい弾痕を艦側にうけながら板枠で応急修理をうけてわが三隅湾に曳航され小島沖に哀れな敗残の姿で停泊していた。それは海戦後一週間位後のことであった。

明倫校では男女児童河内道蔵校長に引率され審に参観した、のち担任の先生から軍艦「ワリヤーク」を見るの記の作文が課せられ夏休みの宿題の一つに加えられた。

戦いが石見の沖だったので「ワリヤーク号」は石見艦と命名され呉港に廻航し大改修を受け名誉ある日本の艦籍にのせられ後二十年位わが国防を果した訳である。

また本文の鯨の話しに戻る。

日本海海戦大勝の波涛の陰に山田、岡両翁の捕鯨船隊も亦大豊漁をあげている、その頃いかに多く

文芸

俳句

清風句会
五月例会
（順不同）

薫風に出雲神話の大刀探る　笹見　梅雪
万緑や神々の郷古墳群　斉藤　元
八雲立つ銘文大刀花古墳　岡　松月
白鳥や山まろやかに夏日落つ　上田　雪子
花衣脱ぎ踏む絹の足ざわり　岩本さつき
出雲旅心なごむや新茶古茶　竹内　奈美
新緑やそれぞれの彩陽に透けて　池田　久子
池の鯉映る新緑に身をひそむ　田村　九重
新緑や八雲立つ兵大分の地　山中　重女
六世紀の古刀発見若葉萌ゆ　宮垣　蔦女
柏餅姑の味つぐ姑となり　田中　信江
新緑の三瓶を窓にカーステレオ　磯野　弘子
季不順梅と桜が並び咲く　牡丹花の花びら豊かにひらきし
花散りて淋しき部屋に新花入る　を朝の雨の激しく打てり
葉桜の松江灯下に句のつどひ　因藤　兎史
吟行の車窓を巡る新樹萌ゆ　出雲路は神々の郷風薫る
災害の爪跡残り木の芽ふく　花は葉に風土記さぐりて二日旅
新緑や神の国なり唄の国　山崎　菊女
万緑の彼方に三瓶雲遊ぶ　柏餅湯気立つお初み佛に
額田部乃臣眠る岡若葉山　葉桜や女鶴道中八文字　仁保　民子
葉桜や一葉舞い落つ地蔵肩
山陰路石楠花そっと顔を出し　宮永ミネ子
風さやか出雲路探ね幾曲り
春吟行神話の出雲馳けめぐり　山野たけ子
一陣の落花飛び来て髪飾る
野仏に誰が供うか柏餅　大深　八重
出雲路や新緑の香にむせびつつ
隠岐島に虹をかけたし志げき節
選者追吟二句　永田　石山
嫁ケ島湖上はるかに夏館
新緑を裾にめぐらせ三瓶山

短歌

三隅短歌会
五月作品

箱苗の日毎に伸びて初夏の日に
道ゆく人らの歩は速まりぬ　臼井　麻子
見はるかす秋吉台は緑萌え石く
きやかに真白に耀う　田中　信江